

症例から学ぶ脊椎関節炎

強直性脊椎炎，未分化型脊椎関節炎ほか



著：浦野 房三

B5 頁 139 2008 年
定価 3,885 円(本体 3,700 円+税 5%)
[ISBN978-4-88002-684-8] 新興医学出版社

著者も述べているように，脊椎関節炎の患者は多く，日常診療でよく遭遇するにもかかわらず，稀な疾患であるという印象が強い．この現状を打ち破るため，この本はわが国初めての，しかも時宜を得た出版物であり，脊椎関節炎の臨床に貢献するところが大きいと思う．著者は豊富な症例の呈示による解説に力を注いでいて，何よりも現場の医師に直接役立つものにしようとする著者の意向には全く同感である．

かつて強直性脊椎炎といわれていたものが，現

在では“脊椎関節炎”の中の一疾患とされるようになり，さらに著者のいう未分化脊椎関節炎の診断名も用いられるようになったことで，有病率が増加し，欧米では RA にほぼ比肩するほどである．脊椎関節炎のもう一つの特徴は多くの合併症をもち，これも RA に劣らず症状が多彩なことで，皮膚，眼，腸の症状，感染症，Behçet 病，その他肺，循環器病など枚挙にいとまがない．本書はこの点でも大いに啓発してくれる．

脊椎関節炎の病理の本態は付着部炎であり，これに伴って滑膜炎や骨，骨髄の炎症性変化が出現し，さらには骨化現象も見られる．したがって画像診断が重要であり，本書では単純 X 線像のほか，CT，MRI，超音波を駆使して病像の理解に努めてくれている．

日常診療にリウマチ性疾患をとりあつかうことの多い医師には座右の書として利用していただきたい本であり，わが国のリウマチ学の幅をひろげてくれた浦野先生には深甚の謝意を表したい．